

“わたし”からはじまる 男女共同参画・ジェンダー平等

かごしまジェンダー平等推進プロジェクトイベント

● 開催レポート ●

2024.3.16 開会 14:00
閉会 16:30

執筆：高崎 恵

かごしまジェンダー平等推進PTアドバイザー

主催 鹿児島県

かごしま県民交流センターで実施された当イベントには、かごしまジェンダー平等推進プロジェクトチーム（以下：かごしまジェンダー平等推進PT）のメンバーや男女共同参画地域推進員の方々も含め、33市町村から約130人の方が参加され、鹿児島県のジェンダー平等に向け、わたしから、今ここから始めるために、お互いから学びあいながら対話を深めました。

展示

- ・かごしまジェンダー平等推進プロジェクト（以下：プロジェクト）取組紹介
- ・県民の皆様から寄せられた「ジェンダーギャップ解消のための私の行動宣言」

令和3年度から3年間実施してきたプロジェクトの取組を紹介するパネルと、今年度募集した「ジェンダーギャップ解消のための私の行動宣言」を紹介するパネルを会場入り口に展示し、県民の皆さんのそれぞれの取り組みにふれた上で、会場に入っていました。

トークセッション “データで気づき語り合う 鹿児島の実情とビジョン”

進行：白鳥哲也さん（NHK鹿児島放送局アナウンサー）/高崎 恵（かごしまジェンダー平等推進PTアドバイザー）

鹿児島県のジェンダーの現在地として4つのデータを見ながら、「この背景には何が？」「実感としてはどう？」「私の経験は…」「こんな風にすればいいんじゃない？」などなど、多様な世代、多様な来歴のある方々で重ねた対話により、色々な気づきや学びがありました。



データ
詳細は
こちら



全体に共有されたグループでの対話の内容

●賃金格差（民営事業所における一般労働者の賃金の状況）

（出所：「R4年賃金構造基本統計調査」厚生労働省）

ある程度の年齢になると女性が管理職に上がれないことで給料に差がでてしまう。以前は就職する時の入り口が男女で違ったので、当時より良くなっただけ…。育休からの復帰後の勤務体制等によって、なりたくても管理職になることが難しい。男性主体の仕組みでは、女性の意欲は上がらなかった。評価システムなど仕組みを変えて理解が広まったことで、女性も管理職を引き受けてくれた。

●夫と妻の家事関連時間（出所：「R3年社会生活基本調査」総務省）

グループ内で話してみても、世代により時代の影響があるなあ〜と気づいた。男性からは、出稼ぎや単身赴任で、家事に参画する機会がなかったという声もあった。自分は男性だが、家事も子育ても好きで、妻より自分の方が家事の分担割合は高い。生きるためのスキルとして、これからの子どもたちには性別に関わりなく家事に関わる機会をつくって行こうと思う。

●高校への入学者の学科ごとの性別割合（出所：「R4年度学校基本統計」鹿児島県）

自分は50代後半、正直にいうと「理系は男子」「学科によって体格的に女子には難しいものもあるかな」というイメージもあった。今後のことを考えると、性別を問わない受け皿を整えていくことが重要。この差が悪い訳ではなく、本人が希望していればよい。自分が学びたいことに出会えていないこともある。性別を問わず、理系に興味を持つような経験や機会を作ることが大切。

●男女の地位の平等感～地域社会の中で～（出所：「R3年度男女共同参画に関する県民意識調査」鹿児島県）

地区の集まりで、先日「私じゃだめですか？」と40代の女性が手をあげ公民館長になった。そのとき、地区公民館長＝男性という刷り込みがあったことに皆が気づいた。その方の意思表示、自己決定が素晴らしいと思った。自治会で女性が発言すると止められたり、自治会長は男性であることが多いが、学校では生徒会長に女子がなっていたりするので、子どもたちから学ばなきゃ！

講話MEMO

“MINNAですすめる男女共同参画・ジェンダー平等” たもつ ゆかり さん（かごしまジェンダー平等推進PTスーパーバイザー）

集まった方々の対話を終えて、最後に、かごしまジェンダー平等推進PTスーパーバイザーであるたもつさんより、これまでの男女共同参画・ジェンダー平等の推進の時代背景や、長い歴史の中で歩みを止めなかった先人たちのこれまでの営みがあって今日この日があるということ、そして、私たちがそれぞれの場所で「わたし」からはじめていくことの大切さを共有する講話がありました。



3年間鹿児島県が取り組んできたプロジェクトは今年度で終了しますが、SDGsの達成に向けた世界的な潮流等によりジェンダー平等に向けた風が吹いているこの機を逃さず、ここからは、私たち一人ひとりの場所から取組を始めていくことが大切です。

かごしまジェンダー平等推進PTメンバーの3年間にわたる活動を見て、「知って、気づいて、動く」ことで状況は変えられることを実感しました。また、平成20年度から活動してくださっている男女共同参画地域推進員の皆さんも、一人ひとりがそれぞれの日常の場で活動し、近くにいる方の気づきの場を丁寧に作ってくださっています。

ここからは、今年度3地区で実施した「地域MINNA会議」のように、「知って、気づいて、動く」プラットフォームをそれぞれの場所で作ってほしいと思います。

男女共同参画・ジェンダー平等に向けた取組は今に始まったことではなく、多くの先人たちの土台があって、今があります。鹿児島県でも、男女共同参画を推進するための条例が制定され、男女共同参画センターも開設された一方でバックラッシュもありましたが、これまでの県や市町村の担当者が大変な思いをしながらも歩みを止めずに取り組んできたからこそ、今があります。

地域を、我がこと、丸ごと、包摂性のある場にしていけるよう、今日お集まりの皆さんがそのキーパーソンとして、ジェンダー格差のある日本を次の世代に手渡すことのないように、今日から、あなたから、より身近にこの取組を続けていけたらと思っています。

たもつさんの講話から